

地図と会話し、そのまま目的地へ。3D デジタルツインプラットフォーム「メタマップ」がフルリニューアル

経路ネットワークを自動生成し、施設情報の更新も AI チャットから。制作・案内・運用をひとつのプラットフォームで

ポールドライト株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：宮本章弘）は、「メタマップ（Metamaps）」を、実空間の 3D 表現と AI を基盤とするデジタルツインプラットフォームへ刷新し、2026 年 9 月 30 日から提供を開始しました。今回のリニューアルでは、商業施設をはじめとする施設の案内・運用機能を強化。地図との会話から経路案内、経路ネットワークの自動生成、AI による施設情報の更新までを一体で提供します。メタマップは、商業施設・テーマパークなど 170 を超える施設に導入されています。これまでの施設マップで培った案内・運用機能を基盤に、来訪者の体験と施設側の運用を支えます。



実空間を立体的に表現する 3D マップと、会話から経路案内まで対応する AI エージェント。

なぜ施設マップに 3D なのか

商業施設のフロアや吹き抜け、駅の階層をつなぐ階段、テーマパークで目印になる建物。施設内を移動するとき、人は周囲の景色や高さ、空間のつながりを手がかりにしています。メタマップは、こうした特徴を立体的に表現。目的地と周囲の建物の位置関係やフロア間の移動を捉えやすくし、初めて訪れる施設でも道順をイメージできる案内を提供します。

AI で 3D 施設マップを標準に

従来、3D モデルの制作には専門的な CG 制作が必要で、費用と時間が課題でした。当社は独自 AI モデルや独自開発の AI 制作ツールにより、平面図や写真を活用した地図・3D モデル制作を効率化しています。

当社の制作例では、顧客との調整・確認を含む制作期間を、従来のイラストによる 2D マップと比べて 70%以上短縮しました。AI による生成効率向上に加え、再現性があるため、数百店舗を展開するリテール店などでも同じ地図の高速生成を実現しました。制作の負担を下げ、より多くの施設で導入・運用できる環境を提供し、3D を施設マップの新たな標準にすることを目指します。

来訪者に提供する 3 つの体験

① 地図に質問しそのまま案内を頼む

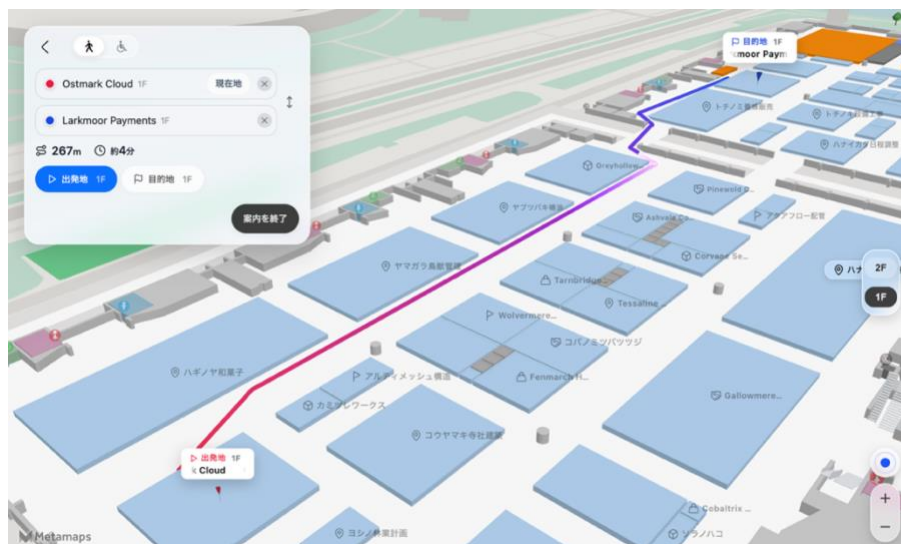
「このお店の営業時間は？」「そこまで案内して」といった自然な言葉で、施設情報の検索から経路案内までを AI エージェントに依頼できます。施設が登録した情報を検索・参照して回答する仕組み（RAG: 検索拡張生成）を搭載し、地図上の場所と結びつけた対話型の案内を提供します。



施設について質問し、会話の流れで目的地への案内を依頼。

② 目的地までの道順を立体的に確認する

目的地までの経路を 3D マップ上に表示し、ウォークスルーで進行方向や周囲の目印を確認できます。複数階にまたがる移動も、フロアのつながりとともに案内します。



目的地までの経路を、周囲の空間とともに確認（展示会場サンプル）

③ 施設を見渡しその場所の情報を知る

店舗や展示、アトラクション、設備などのスポットを 3D マップ上に表示。写真や説明、営業時間などを確認できます。エッジ AI カメラ「Metamaps Vision Edge」による混雑状況の自動判定や、専用アプリ「Metamaps Connect」で担当者が更新した混雑情報にも対応。施設全体の位置関係と、それぞれの場所の情報をひとつの画面で把握できます。

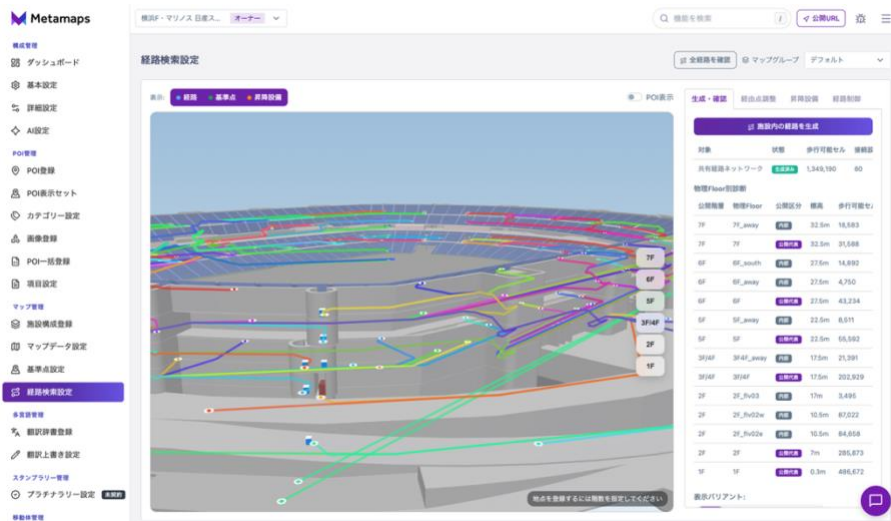


地図上の場所と、写真・施設情報を結びつけて表示（テーマパークサンプル）

施設側の制作と運用を支える管理機能

案内に必要な経路ネットワークを自動生成

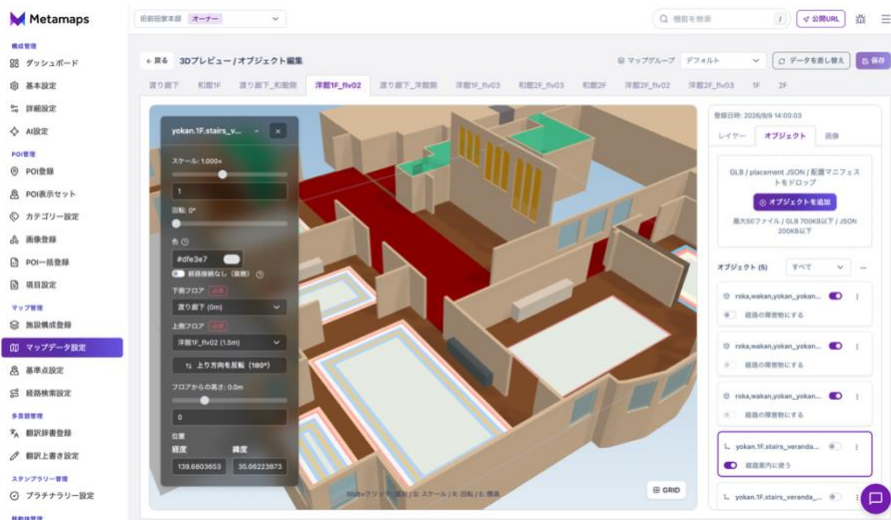
床や壁、障害物、通路幅、傾斜、昇降設備などの地図データをもとに、経路検索に必要なネットワークを自動生成します。担当者が経路を一本ずつ手作業で引く工程を自動化し、地図の更新時にも再生成できます。時間帯ごとの通行制限も経路検索に反映し、施設の運用に合わせた案内を行えます。



施設内の案内経路を自動生成。階段の踊り場やエスカレーターの方など、複雑な構造にも対応。

3D マップの見た目を管理画面から直接編集

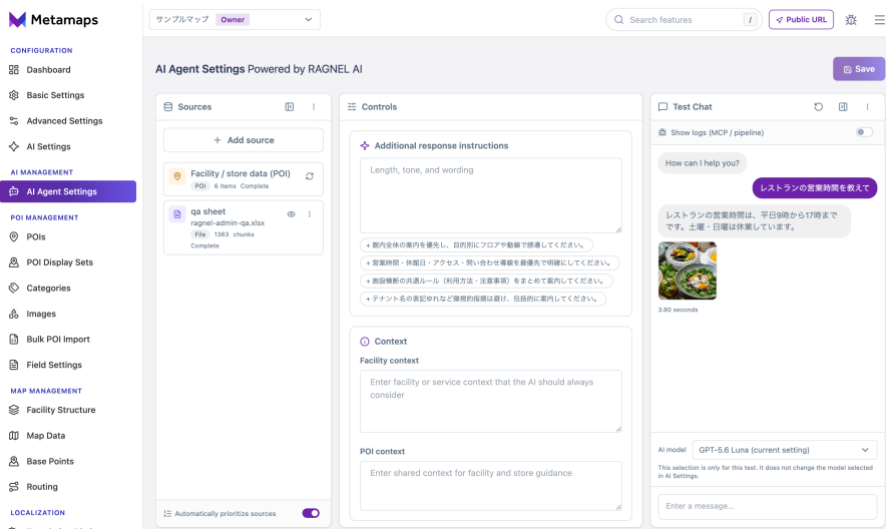
地図を構成するレイヤーや、配置した 3D モデルの色・サイズなどを管理画面から調整できます。GLB 形式の 3D モデルにも対応し、施設に合わせた表現をブラウザ上で編集できます。



3D マップを構成する要素の色やサイズを直接調整。

施設情報と AI の回答を同じ管理画面で運用

店舗・施設情報や Q&A 資料などを、AI が回答時に参照する情報源として登録できます。管理画面では、情報源の管理、回答方針の設定、テストチャットによる回答確認までを行えます。



情報源の登録から回答の確認まで、ひとつの画面で管理。

AI に依頼して施設情報を更新

ChatGPT や Claude などの AI チャットから、店舗情報やイベント情報の登録・更新を行えます。AI チャットに添付した PDF や Excel の内容を読み取り、施設情報として登録することも可能です。説明文の作成から登録までを、会話の中で進められます。



外部の AI チャットから、イベント情報の登録や待ち時間・営業時間の更新を実行。

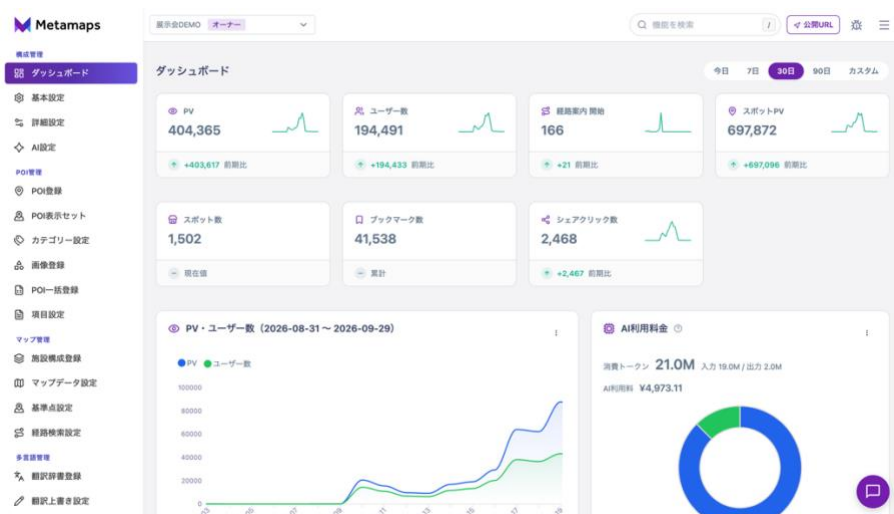
実空間とつながるデジタルツイン

メタマップは、地理座標を持つ地図データ「GeoJSON／IMDF」をもとに 3D 空間を生成します。GPS や BLE ビーコンによる測位と連携し、実空間にいる利用者の現在地を地図上の案内につなげます。実空間の形状と位置情報を結びつけた 3D 空間を、案内や情報発信、各種サービスに活用できる基盤として提供します。

外部システムと連携する API、AI エージェントと連携する MCP やプラグイン、アプリへの組み込みを支援する SDK も提供。地図や案内機能を、独自のサービスにも活用できます。

多様な施設へ展開

対象は、ショッピングセンター・百貨店、テーマパーク、美術館・博物館・動物園・水族館、スタジアム、大学、工場、空港、駅などです。正式リリースに先行して、既存サービスから新基盤への移行が進んでいます。AI 多言語対応や AI スタンプラリーなども通じて、施設案内から回遊促進、運営支援まで、AI を前提としたサービスを拡充していきます。



利用状況の把握とスポット情報の更新を支える管理画面。画面内の数値はサンプル。

施設から街や地域へ広がる 3D マップ

メタマップは、実空間を 3D で再現し、場所にひもづく情報や AI との対話を通じて活用できるデジタルツインプラットフォームです。商業施設をはじめとする施設での活用を起点に、今後は街並みや地形を含む広域の 3D マップへと対象を広げていきます。

メタマップについて

2020 年 9 月に前身のインドアマップシステムを提供開始し、2022 年に「メタマップ」へリブランド。施設案内と運用を支えるデジタルマップとして展開しています。

サービス概要とお問い合わせ

サービス名：Metamaps（メタマップ）

提供開始日：2026 年 9 月 25 日

サービスサイト：<https://metamaps.jp/>

提供会社：ボードライト株式会社

お問い合わせ：<https://metamaps.jp/getintouch/>